



令和2年9月1日(火)
品川区立台場小学校
校長 木村 巳典
きこえとことばの教室
担任 金田・高橋・木下
飯野・忍足・山城
Tel&Fax 03-3471-4943

～学校長より～

例年より早く2学期がスタートしました。短い夏休みではありましたが、新しい生活様式の中で、皆さん楽しく日々を過ごされ、一回り大きく成長し、学校に戻ってきてくれたことと思います。

1学期のきこえとことばの教室は「在籍学級で安定して授業を受ける」ということを優先して指導を進めてまいりました。2学期も状況に合わせて感染予防に努めつつ指導をすると同時に、子どもたちの時間を充実させ、まさしく「学びの秋」にしていきたいと教員一同張り切っております。

2学期は、在籍校では運動会、学芸会や展覧会などの大きな行事が行われますし、12月には「きこえとことばの教室」でも学習発表会を予定しています。それぞれ新しい形での実施になろうかと思いますが、この教室で、力を付けていることを自信として、一人一人が大活躍してくれることを願います。

今学期も保護者の皆様、在籍校教職員の皆様など、関係するすべての皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

9月の予定

17日(木) コミュニケーショングループ
(女子)13:30～(男子)15:00～
23日(水) 吃音グループ 15:00～



10月の予定



7日(水) きこえグループ(高) 15:00～
14日(水) 吃音グループ 14:00～
17日(土) きこえとことばの教室 教室公開
10:00～11:00
21日(水) きこえグループ(中) 15:00～
22日(木) コミュニケーショングループ
(女子)13:30～(男子)15:00～

主訴別グループ活動が始まります。

☆お知らせ☆

10月初旬に前期の個別指導計画を送付させていただきます。校長先生と担任の先生の印鑑を押して台場小まで返送してください。管理職の先生方、担任の先生、コーディネーターの先生、養護教諭の先生で内容を共有していただきますようお願いいたします。

主訴別グループ活動の予定について

きこえグループ、吃音グループ、コミュニケーショングループ年間行事予定が配られています。日時が変更する場合がありますので、担当に確認の上参加をしてください。

1学期個人面談を終えて

お忙しい中、御来校いただきありがとうございました。お話いただいたことを2学期の指導に生かすとともに、教室内で情報を共有し、子どもたちを支えています。



♪夏の思い出2020♪



みなさんの夏休みは、どんなお休みでしたか？

ずっとエアコンのきいた部屋で過ごしていました。家族が好きなバイクドチーズケーキ作りにはまり、休み中3回も作りました。おかげでだいぶ上達しました。2学期もよろしくお願います。

高橋比呂子

家で毎食料理をしたり、テレビを見たりして過ごしました。最近、高校野球の記念大会を熱心に見ていました。出身の山形が勝って、とても嬉しいです。

パワーをもらったので、2学期も笑顔でがんばります！

忍足祐紀子

今年の夏は、家の中で旅行をした気分を味わうために、グリーンカレーや生春巻、ナシゴレンなど海外の料理をたくさん作りました。たくさんスパイスを効かせた料理から元気ももらったので、2学期もがんばります！

山城佳之

娘と甥っ子とベランダプールをしたり、蝉取りをしたり、アリの巣の観察をしたり、恐竜のレゴを作ったり、家でできる楽しみを見つけて過ごしました。

2学期も元気に笑顔でがんばります♪

金田有未

部屋を暗くして、テレビを大音量にして、ペンライトをもち、できるだけライブ会場に近い環境にして、オンラインライブやDVDライブを楽しみました。2学期も健康な心と体で、楽しくがんばります☆

木下加奈

家でも運動を始めようとマットや筋トレグッズを買い、部屋をプチジム化しました。日々トレーニングに励んでいました。夏休みが終わっても、引き続き鍛えていこうと思います。

2学期もよろしくお願います！

飯野啓介

裏面もごらんください。

吃音とは・・・

話し方を覚えつつある幼少期の子どもには、単語や語句を繰り返す時期があります。これがいろいろな状況下で頻りに現れ、もっと話しくくなり定着していくと、「吃音」と呼ばれるようになります。

吃音の原因については、いろいろな考え方があります。医学・心理学・言語学・社会学など、これまでに専門家が何十年と研究をし、様々な要因が指摘されていますが、これこそ吃音の原因だという確かなものは、未だに明確になっていません。

〈吃音の特徴的な症状〉

吃音には、様々な症状があります。症状が進むと、言語面だけでなく、身体面でも下記のような様々な症状が見られるようになります。

☆言葉の非流暢性（言語症状）

①単語や文節内での非流暢性

- (1)音や音節の繰り返し(連発)：「ぼ・ぼ・ぼ・ぼくね」
- (2)音の引き伸ばし(伸発)：「ぼーくね」
- (3)音がつまって出ない(難発)：「・・・っぼくね」

②単語や文節での非流暢性

- (1)言い直し：「ぼくは、ぼくが、ぼくの」 (2)挿入：「これは、えーと、お店で、あの・・・」
- (3)単語全体の繰り返し：「魚・魚・魚が泳いでた」 (4)句の繰り返し：「机の・机の上」

☆運動・動作（随伴症状）

身体的なもの：首を振る、眼をパチパチする、足を踏み鳴らす、頬を叩く、手や指で拍子をとる、身体を揺する、腕を振る など

呼吸に伴うもの：あえぐ、息を止める、呼吸発声 など



吃音は、いつも同じではなく、波があります。その波は、季節・体調・場面・ことば・相手・緊張の度合いなど、様々な条件によりますし、人によっておこり方が違います。大切なのは、本人も周りの人も、吃音の調子によって喜びすぎたり落ち込みすぎたりしないことです。「波がある」ことをしっかり知っておくことが大切です。

吃音のあるお子さんには・・・

きこえとことばの教室では、吃音のあるお子さんに対して、話し方のモデルを示すなど、流暢な話し方を積ませたり、プレイセラピー（遊び等の活動を通じた指導）の中で、お子さんが抱える不安を解消したり自信を育てたりしています。吃音のあるお子さんに対しては、お子さんの周囲の環境を整えることもとても大切です。

吃音よりも、話す内容に耳を傾けてください 言葉への注意は、しないことが大切です

お子さんが、「話してよかった」「お話しするのって楽しい！」と思えることが大切です。「もう一度言ってごらん」「落ち着いて」などの声掛けは、自分のことばに必要以上に關心をもってしまいます。ことばへの注意はせず、ゆっくりと話のできる雰囲気づくりをお願いします。また、つまらずに話せたり読めたりしたことを殊更に褒めず、内容や態度を褒めるようにしてください。

自分の気持ちをのびのび言えることや、自信をもてることが大切です

吃音のあるお子さんにとって、気持ちを堂々と表現したり、人間関係に強くなったり（吃音が出て平気だと思える）することが大切です。それでも、成長してくるにしたがって悩みは深くなります。周りの人が「平気だよ」と言っても、本人にとっては「全然平気じゃないよ!」ということも増えます。人前で自分を表現し辛くなってきます。そんなときに、気持ちが出せるようにするにはどういう励ましが必要かを考えていくことが周りの大人の役割になってきます。ことばがつまりながらも平気で口げんかをする、うるさいくらいによく喋る、人前で自己主張する…そんな子どもになれるよう、励ましていく、「こういうときにはこうしたい」と、お子さん自身が大人と相談できるようになるということも大切です。

吃音があることで、何もかもに自信をもてないお子さんが多いです。ぜひ、長所を見つけて褒めてあげてください。些細なことでも認めてもらえた経験が自信となり、のびのびと生活できる力となります。

音読を苦手にならないような配慮が大切です

音読をするとき、緊張が高まっていつも以上にことばがつまってしまうお子さんもいます。初めて読む文章のときには、更に緊張してしまうこともあります。しかし、二人以上の人と一緒に音読すると、つまりにくくなることが多いです。ですので、誰かと一緒に音読して読み慣れてから一人読みをすることも方法のひとつです。音読の宿題では、お家の人と一緒に読む、学校では先生に小声で「添え読み」をしてもらうなど、ご配慮いただけたら音読への負担が軽くなると思います。

吃音に関するおすすめ書籍

- ・「子どもの吃音 ママ応援BOOK」菊池良和 著（学苑社）
- ・「子どもがもっていると感じたら ～吃音の正しい理解と家族支援のために～」廣島忍・堀彰人 著（大月書店）